

東求堂

東求堂は、足利義政(1436~1490 年)の命を受け建設された東山山荘の中で、現在に残っている二つの建物のうちの一つです。この建物は 1486 年に完成しました。また、国宝に登録されています。この建物は、東山文化の素朴なわびさびの美学を示しています。

東求堂の中にある四つの部屋の中の一つである同仁斎は、日本建築に影響を与えたことから、重要なものとされています。この四畳半の部屋は、義政の個人的な書斎でした。この部屋は、禅宗に影響を受けた書院造になっています。シンプルな様式に、名称にもある造り付けの書き物机である、付け書院などで特徴づけられています。この部屋には、貴重な唐物が飾られていた段違いにずらしたような棚や、畳の床、光を取り込むことができる紙製のスライド スクリーン

(襖)、そして庭の風景があります。書院造の様式は江戸時代(1603-1867 年)の住宅建築の主要なスタイルとなり、現在でも、伝統的な日本建築の基盤となっています。同仁斎は、現存する四畳半書院造で最も古いものとされ、また、このような様式や小さな茶室の先駆けとされています。

同仁斎の斜め前の部屋には二つの仏壇があり、一つには阿弥陀仏の立像(無量光仏とも呼ばれる)、そしてもう一つには僧衣をまとった写実的な義満の木像が安置されています。部屋は通常非公開です。